

## ■社会福祉学科 2019 年度開講科目 カリキュラムマップ

### 社会福祉学科 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

社会福祉学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

社会福祉の学びの究極は人間を理解することです。したがって、本学科が目指している人材に求められる資質は人間への深い関心と幅広い視野です。人間のニーズ(必要性)は多種多様であり、たとえ同じニーズであってもその状況に応じて、一つとして同じ対応はあり得ません。このような人間そのもの(人間理解)を対象とする「社会福祉」だからこそ幅広い視野が求められてきます。

以上のことから、社会福祉学科の教育目標は、現在の福祉環境を多面的に理解し、幅広い教養と深い専門領域を学修することによって、社会の発展に寄与できる人、それぞれのライフステージのなかで全ての人の「幸せ」(福祉)と「安心」を追究できる人、生活問題を主体的に解決できる人、このような人材を養成することです。従って、大学の理念である行学一如及び社会福祉学科の教育目標を理解し、124 単位の単位取得と要件、求められる GPA(※1)を満たした上で、社会福祉学の知識と技能・技術を修得し、下記の資質能力について実践を通して理解を深めた人物に学位を授与します。

#### (ア)学生が身につけるべき資質・能力の目標

社会福祉学科では、社会福祉実践力を習得するために、以下の資質と能力を育てます。

#### 1. 学びと行のための知識・理解

	ディプロマ・ポリシー原文	ディプロマ・ポリシーとの関係	カリキュラムマップ記載時の番号表記
(1)	さまざまな環境下にある人びとの生活や社会で起きている現象に関心を持つことができる	社会への関心と理解	③
(2)	さまざまな環境下にある人びとの生活状況、それらを取りまく社会構造、身体・心理的特徴、かれらへの関わり方等にどのようなものがあるかを理解できる	他者への関心と理解	②
(3)	さまざまな環境下にある人びとの福祉的課題について、アセスメントできる	アセスメント力	⑨
(4)	自らの関心や適性をふまえて、(2)(3)のなかでも特にどのようなアプローチで対象者の生活状況または社会をより良くすることができるかについて理解できる	問題解決力	⑩
(5)	(4)のアプローチについて、専門的知識を身につけた自信がある	専門的知識	①

#### 2. 学びと行のための技能・技術

	原文	ディプロマ・ポリシーとの関係	カリキュラムマップ記載番号
(1)	特定の課題について必要な情報を収集・整理・分析・考察し、文章化する(レポートまたはプレゼンテーションにまとめる)ことができる	他者配慮表現力	⑤
(2)	(1)を ICT(情報コミュニケーション技術)を用いて発表することができる	ICT 活用力	⑥
(3)	他者の発表や意見を関心をもって最後まで聞くことができる	自己尊重的コミュニケーション力	④
(4)	他者の発表などに対して質問や発言をすることができる	クリティカルシンキング力	⑧
(5)	他者の発言を促したり自制を促すなどして全体の議論を調整することができる	自己尊重的コミュニケーション力	④

#### 3. 学びと行のための態度・志向性

	原文	ディプロマ・ポリシーとの関係	カリキュラムマップ記載番号
(1)	ふだんの生活やさまざまな活動を通して抱いた疑問を大事にし、学びや行のやる気(モチベーション)を高めることができる	自己コントロール力	⑦
(2)	疑問に答えるための行動を起こし(該当科目を履修する、図書館・各種メディアで情報を集める、先生・友人・家族・知り合いに聞く、当事者に聞きに行く、活動に参加する、など)、自分なりの答えを見つけることができる	問題解決力	⑩
(3)	自分の意見を他者にわかるように伝える工夫をしており、適切に表現ができる	他者配慮表現力	⑤
(4)	異なる立場にある人の意見や考え方も知り、対話の中で理解を深めることができる	自己尊重的コミュニケーション力	④
(5)	社会福祉の倫理観に基づいたコミュニケーションスキルを発揮することができる	自己尊重的コミュニケーション力	④

#### 4. 行動

	原文	ディプロマ・ポリシーとの関係	カリキュラムマップ記載番号
(1)	3.(2)で見つけた現時点での自分なりの答えを実践すべく、目標を設定し、行動に移すことができる	問題解決力	⑩
(2)	その行動に必要な専門的知識・技能の向上に努めることができる	専門的知識	①
(3)	目標に向かって他者と協力することができる	自己尊重的コミュニケーション力	④
(4)	目標に向かって最後までやり抜くことができる／気概をもっている	自己コントロール力	⑦
(5)	目標に向かう過程で困難に直面しても、成長する機会として前向きに捉え、乗り越えるための工夫ができる	自己コントロール力	⑦
(6)	身につけた知識・理解、技能・技術、態度・志向性をもって社会問題を解決する／社会に貢献することが楽しみとなっている	社会貢献力	⑪

カリキュラムマップ記載時の番号表記	ディプロマ・ポリシーとの関係
①	専門的知識
②	他者への関心と理解
③	社会への関心と理解
④	自己尊重的コミュニケーション力
⑤	他者配慮表現力
⑥	ICT 活用力
⑦	自己コントロール力
⑧	クリティカルシンキング力
⑨	アセスメント力
⑩	問題解決力
⑪	社会貢献力

#### (イ)学位授与の条件

社会福祉学科の教育目標を理解し、124 単位の単位取得と要件、求められる GPA(※1)を満たした上で、社会福祉学の知識と技能・技術を修得し、上記の資質能力について実践を通して理解を深めた人物に学位を授与します。

\*1 GPA: Grade Point Average の略。授業科目ごとの成績について、例えば5段階(秀・優・良・可・不可)で評価した上で、それぞれに対して4・3・2・1・0のようにグレード・ポイント(GP)を付与し、その平均を算出して評価を行う制度をさします。

●共通基礎科目

科目コード	科目名称	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係 (◎特に重要、○重要、△望ましい)																	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪							
AA1001 AA1031	禅のこころ	禅の思想的特徴を理解すると同時に、実際に坐禅を体験しその精神を会得する。	1) 禅の思想的特徴を理解する。 2) 坐禅の作法を身につける。 3) 調息、調身、調心について理解し実践する。 4) 坐禅を通して自己と他者を観察する。 5) 坐禅を通して自己を整える。自分を取戻す。	△	◎						◎										
AB1002	ボランティア論	ボランティアが地域社会に果たす役割、また地域社会から寄せられる期待は、年々大きくなっています。世間一般にいわれているボランティアとは、どのようなものなのでしょうか。また、なぜ地域社会ではボランティアが必要とされるのでしょうか。ボランティアの基本的理念、またボランティア活動の具体的事例や活動の現場で今どのようなことが問題になっているのか理解を深めましょう。	1) ボランティア活動の定義について説明できる。 2) ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。 3) 地域社会におけるボランティア活動の実践者あるいは推進者として行動するための知識を理解し説明することができる。 4) ボランティア活動に関わる制度およびその活用法について説明できる。	○	◎	◎	◎	◎	△	◎	○	○	◎	◎							
AB1020 AB1032	科学的な見方・考え方	現代社会においては、メディアを通して数多くの情報が瞬時に飛び交い、大した苦勞をすることもなく豊富な情報が手に入るようになりました。しかし、自分では十分に理解していると思っている情報であっても、いざ誰かに説明してみたら、意外とうやむやな理解であったために説明に戸惑ったり、矛盾を指摘されて誤解に気付いたりすることもあるようです。さらに、学習のために調査し多くの事例や資料をまとめていく作業においても、先に結論ありきなのか、論理の飛躍や矛盾に気付かないままに進めてしまうケースが見受けられます。 特に通信教育のように、「書いたもの」のやりとりがメインである場合には、「そういうことが言いたかった（書きたかった）」「そういう意味も含めて書いた（つもり）」と意思を伝えても、実際に文字になって表現できていなければ、読み手には全く伝わらせず、単なる飛躍したアイデアやひらめきと言われても仕方ありません。 そこで本科目では、論理的に説明するひとつの方法として、資料（図または表）を活用して自身の考えを論理的に組み立てる手法を学び、科学的根拠に基づいた説得力のある表現ができるようになることを目指します。	1) 自分の意見を明確に述べたり、わかりやすく説明したりすることができる。 2) 問われていることに的確に答えることができる。 3) 飛躍がないように論理を組み立てて、他者を納得させることができる。 4) データで示されている内容を、正確に読み取ることができる。 5) 先入観や一般論を混在させずに、事実に基づいた説得力のある表現ができる。 6) 科学的根拠により表現されているか否かの判断が明確にできる。		○	○		○	◎		◎		○								
AB1033 AB1145 DA2145	基礎演習	通信教育での基盤となるレポート学習の仕方について学びます。 【スクーリングで学ぶ内容】 福祉にまつわるさまざまな問題からテーマを設定し、グループごとに話し合い、議論された内容について資料（レジュメ）を作成し、最後にグループ発表を行っていただきます。適切な情報収集のために必要な書籍とインターネットの活用方法や、聞き手（読み手）に伝えるための内容構成について学びます。一方的な講義形式ではなく、学生が主体的に参加する演習形式です。受講生の自由な視点からの、活発な議論を期待します。またグループ学習を通じ、普段の学習方法についての情報交換や学習仲間をつくる機会にもしてください。 【レポート学習で学ぶ内容】 スクーリングでグループごとに作成した資料（レジュメ）を骨子として、レポートを執筆します。レポートとしての正しい書式や構成、表記方法を学びます。	1) 一つのテーマや話題について討議し、他者の意見を傾聴しながら、新たな気づきを得、またそれらを自身の中で再構築し表現することができる。 2) レジュメの作成を通じてレポート学習の手順を理解し、正しい書式で要点を押さえたレポートを書くことができる。 3) 学友の輪を広げる。		△	○	◎	○	◎	△	◎		○								
AB1034	情報処理の基礎	情報化社会においては、コンピュータの活用として、インターネットでの検索ができるだけでなく、コンピュータでの文章作成と表計算が欠かすことができなくなっています。そこで、通信教育においても活用される学習システムの活用方法の修得から始まり、コンピュータを使用したレポート等の文章作成ソフト、データを分析するための表計算ソフトの活用方法の基礎を学びます。また、情報化社会においては、コピペやSNSの炎上などが問題視されていることから、情報機器を活用する際の情報モラルについても学びます。これらの学びを通して、通信教育課程において求められる情報リテラシー（コンピュータを使うための知識・技術）を修得します。 【スクーリングで学ぶ内容】文章作成、表計算の基本的な技術の修得を目指します。 【レポート学習で学ぶ内容】情報モラル、文章作成、表計算に関する知識や実践力の修得を目指します。	1) 通信教育課程にて求められる学習支援システム（TFU オンデマンド）が活用できるようになる。 2) コンピュータを用いてレポートなどの文章を作成できる。 3) コンピュータを用いて表計算やグラフの作成などができる。 4) コンピュータを使用する上でのマナーやモラルを論じることができる。	○	○	△	△	◎	◎	○	△	×	○	×							
AB1332	情報処理 I	情報化社会においては、コンピュータの活用として、インターネットでの検索ができるだけでなく、コンピュータでの文章作成と表計算が欠かすことができなくなっています。そこで、通信教育においても活用される学習システムの活用方法の修得から始まり、コンピュータを使用したレポート等の文章作成ソフト、データを分析するための表計算ソフトの活用方法の基礎を学びます。また、情報化社会においては、コピペやSNSの炎上などが問題視されていることから、情報機器を活用する際の情報モラルについても学びます。これらの学びを通して、通信教育課程において求められる情報リテラシー（コンピュータを使うための知識・技術）を修得します。 【スクーリングで学ぶ内容】文章作成、表計算の基本的な技術の修得を目指します。 【レポート学習で学ぶ内容】情報モラル、文章作成、表計算に関する知識や実践力の修得を目指します。	1) 通信教育課程にて求められる学習支援システム（TFU オンデマンド）が活用できるようになる。 2) コンピュータを用いてレポートなどの文章を作成できる。 3) コンピュータを用いて表計算やグラフの作成などができる。 4) コンピュータを使用する上でのマナーやモラルを論じることができる。	◎	△	○	△	△	◎	○	○	○	◎	○							
AB1035	データ分析とプレゼンテーション技法	本科目では、「データの活用」に主眼をおき、実生活や職場で実践できる「データ分析の基礎」を学びます。そのため、統計学、および、数学的な内容については必要最低限の範囲に留め、その代わりに、「データ分析の設計方法」、「データのクレンジング」、「分析結果の解釈と提示時の留意点」等のより実践的かつ実務的なデータ分析に関する事柄について学びます。 なお、この科目ではデータ分析および分析結果の提示等にExcel やPowerPoint を使用しますので、Microsoft 社のOffice がインストールされているパーソナルコンピュータが必要になります。 【スクーリングで学ぶ内容】 スクーリングでは、データ分析に関する基本的なプロセスを学び、データ分析を演習形式で実際に行います。 【レポート学習で学ぶ内容】 レポート学習では、データ分析における基本的な語句の意味についてとそれらの計算、および、問題とデータが与えられた際のデータ分析のプロセスについて学びます。	1) 「データ分析」の目的を適切に説明できる 2) データ分析を実施する上で重要な「問題領域」「評価軸」「要因」について説明でき、それらを立案できる 3) データのグラフ化（可視化）を行いデータの概要（特徴等）の把握ができる 4) 「代表値」（平均値、中央値、最頻度）の意味と使う場面を説明できる 5) データ分析の結果を他者に正しく伝えるためのグラフ化ができる 6) PowerPoint を用いてデータ分析および分析結果をプレゼンテーションできる	◎	△	○	○	○	◎	○	○	○	◎	◎							
AB1146 DA3146	統計情報を見る眼	私たちは普段テレビや新聞、広告などを通してたくさんの統計情報に接しています。統計情報は物事を客観的に理解し、人に伝える上で非常に有効で便利なものです。さらに、統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことによって、そこから有益な結論を論理的に導き出すことが可能になると考えられます。しかし、その反面、このように統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことは必ずしも簡単なことではありません。 本科目では、1) 統計情報の種類やそれらの特徴について理解すること、2) それらを利用し解釈する際の留意点や統計的な思考法について学んでいくこと、3) 手元のデータを一般化する方法について学んでいくことの3点を目的とします。以上を通して、統計情報に騙されることなく、それを「読みこなし」「使いこなす」ことができるよう「統計情報を見る眼」をより豊かなものにすることを目指します。 なお、統計情報は事象を数値的に処理したものであり、統計情報についての理解を深める上である程度の数学的な知識が必要になります。その点で、特に数学に苦手意識を持つ方には、履修することがはばかれる科目かもしれません。しかし、本科目では、統計値の算出の仕方やその数式の理解ではなく、その統計値の意味やその統計値を解釈し利用する際の留意点について理解を深めることに重点を置きます。	1) 平均や度数といった統計情報の特徴、およびこれらを理解・使用する際の留意点について説明できる。 2) データのばらつきを理解することの重要性について説明できる。 3) 相関について、相関関係を様々な観点から解釈することができる。 4) 統計的検定の思考法について説明できる。 5) 示された統計情報やそこでなされている主張に対して、統計的な思考法に基づきながら批判的に検討できる。	○				◎						○							

AH1003	福祉と経済	現代の福祉は経済システムの重要な分野である。国民経済の稼ぎによって、社会保障や福祉の充実をはかるのみではなく、福祉の充実には経済成長の効果がある。そこで、ここでは①まず経済学とはどのような科学であるのか。経済学の考え方について学習する。②国民の幸福度を高めるための政府の役割について学習する。③国民所得水準は我々の生活そのものである。国民所得がどのようなプロセスで決定されるのか。④国民生活の安定をめざして総需要の大きさをコントロールする政策がとられる。それは具体的にどのような内容であるか。以上の点について学習する。 経済学は数字や式、図が多くてむずかしいイメージがあるかもしれませんが。少しの知識を身につけておくだけで、物の見方・考え方が変わってきます。視野も広まることでしょう。受講者はなるべくスクーリングにも参加ください。なおいっそう、福祉と経済のかかわりが理解できるようになることでしょう。楽しく学習できること、また学習の結果、社会の動きがわかり、楽しさが増えることを願っています。	1) 福祉と経済がどのように関わっているか、自分の考えを整理し、説明できる。 2) 社会保障が行われる根拠として、「分配問題としての市場の失敗」がある。これについて、解説できる。 3) 国民所得の決定プロセスについて、すなわち、総供給＝総需要、貯蓄＝投資 で決まるプロセスについて、説明できる。 4) 有効需要の原理をふまえて、総需要管理政策について説明できる。とくに、アベノミクスとはどういふ政策なのかについて説明できる。 5) 「混合経済体制、応能負担、応益負担、現物給付、現金給付」について説明できる。	◎	◎																	
AH1036	法の基礎	福祉の現場では発生する多様な価値観の衝突に対して、迅速かつ確かな判断能力が必要です。その的確な判断能力を身につけるためには、社会福祉専門職としての法学的知識がどのような場面で、どの程度の活用ができるかという素養が必要となります。本科目では社会福祉の対象となる市民に対しての単なる法学的知識を習得するにとどまらず、社会福祉サービスの対象の属性別（児童、高齢者、障害者など）にそれぞれの領域で専門職としてふさわしい法的思考能力を修得し、ひとりひとりの幸せづくりに貢献できる社会福祉の人材の養成を目的とします。	1) 日本国憲法の制度趣旨について説明することができる。 2) 成年後見制度について解説できる。 3) 民法の全体像について説明することができる。 4) 法の解釈について説明することができる。 5) 判例をあげて、基本的人権を説明することができる。	○				◎		◎									○	○		
AH1007	法の基礎(日本国憲法を含む)	福祉の現場では発生する多様な価値観の衝突に対して、迅速かつ確かな判断能力が必要です。その的確な判断能力を身につけるためには、社会福祉専門職としての法学的知識がどのような場面で、どの程度の活用ができるかという素養が必要となります。本科目では社会福祉の対象となる市民に対しての単なる法学的知識を習得するにとどまらず、社会福祉サービスの対象の属性別（児童、高齢者、障害者など）にそれぞれの領域で専門職としてふさわしい法的思考能力を修得し、ひとりひとりの幸せづくりに貢献できる社会福祉の人材の養成を目的とします。	1) 日本国憲法の制度趣旨について説明することができる。 2) 成年後見制度について解説できる。 3) 民法の全体像について説明することができる。 4) 法の解釈について説明することができる。 5) 判例をあげて、基本的人権を説明することができる。	○				◎		◎									○	○		
AH1037	教育の歴史と思想	今日、大規模な教育改革が行われています。「大学入試センター試験の廃止」をはじめ、「高等学校における大幅な科目編成」や「小学校における英語の教科化」、さらには知識の再生型授業から「アクティブ・ラーニングへの転換」など、教育は戦後最大の転換期にあるといわれています。グローバル化の中で、これからの我が国や世界でどのような産業構造が形成され、どのような社会が実現されていくのか、先行きは不透明です。今日の教育をめぐる問題は、私たちの生き方を問い、未来の社会を決定づける問題です。教育のこれからのビジョンを得るには、その十分な歴史的・社会的理解なくしてはあり得ません。それゆえ、本講義では、教育の目的や思想を歴史的・社会的文脈において検討します。特に近代公教育を生み出した西洋近代社会と近代教育を根本から捉え直すことを通して、教育あるいは人間とは何かについて問い直そうとするものです。その答えは、教育の実践を根底において支えてくれるでしょう。	1) 教育についての関心を深め、今後の学びのための基礎知識を説明することができる。 2) 教育の理念や教育に関する歴史および教育理論に関わる内容について説明できる。 3) 生涯学習の視点からの教育改革の動向や学校教育を取り巻く状況の変化、社会的な要請等について論じることができる。	◎	◎	◎						◎										
AH1017	人間と教育	今日の教育をめぐる課題は、どれ一つをとってみても、わたしたちひとりひとりの生き方を問い、未来の社会を決定づける問題です。学ぶ、知る、考える、成長するとはどういうことなのか。その営為に教育はどうかかわっているのか。暴力やいじめ、非行はなぜなくなるのか。不登校や学校崩壊はなぜ起こるのか。グローバル化、IT化、知識基盤社会の到来は、教育のあり方やわたしたちの生活や成長にどのような影響を及ぼしているのか。教育の改革は、どのように行われようとしているのか。教育を問うということは、何をどのように問うことなのか。まず、教育は、歴史・社会・文化のすべての全体的な関連のなかで営まれる活動です。それゆえに、わたしたちは、教育あるいは人間とは何か、ということについて改めて問い直さなければなりません。なぜ、人間にとって教育が必要なのか、人間にとって教育とは何か、に答えなければなりません。その問いに対する解答は、教育の実践を根底において強く支えてくれるでしょう。	1) 教育についての関心を深め、今後の学びのための基礎知識を説明することができる。 2) 教育の理念や教育に関する歴史および教育理論に関わる内容について説明できる。 3) 生涯学習の視点からの教育改革の動向や学校教育を取り巻く状況の変化、社会的な要請等について論じることができる。	◎	◎	◎						◎										
AH1026	政治学の基礎	本科目では、私たちが日々の生活を送るうえで、必ずと言っていいほど向き合っている政治 (Politics) を理解するために、政治学 (Political Science) を基礎から学びます。政治学は、例えば、少子高齢化や東日本大震災からの復興といった諸問題に対して、現在、国がどのような政策を採用しているのか、そして、その政策がどのように立案・決定されているのか、という点を論理的かつ実証的に説明します。本科目は、その第一歩として、政治制度、民主主義の理論、政党制、政治史、政策過程などの基本事項を学びます。また、流動的な国際社会の動向を的確に把握するため、国際政治学もあわせて学び、外交・安全保障政策に対する理解を深めます。	・近現代における国家の役割の変容について、「夜警国家」及び「福祉国家」という言葉を用いて簡潔に説明することができる。 ・市民革命を経て成立した近代国家の基本理念について、「立憲主義」、「国民主権」及び「権力分立」という言葉を用いて説明することができる。 ・西洋における自由主義思想の発達について、「自然権」及び「社会契約説」という言葉を用いて説明することができる。 ・日本の議院内閣制とアメリカの大統領制について、それぞれの政治制度の特徴を簡潔に説明することができる。 ・政策過程について、政策ステージとアクターの関係に言及しながら、簡潔に説明することができる。	○	△	◎	△	△	○	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AH1049	人権と福祉	人権や福祉という言葉（用語）は、比較的世の中で語られ、聞かれ、その大切さは、多くの人が認めることです。特に福祉系学部・学科では、人権は重要なキーワードであり、社会福祉実践の根源には、「人権」があり、人権の具体的な形態の一つに《福祉》があるといえましょう。 そこで、このスクーリングでは、「人権と福祉」という枠組みで、社会福祉学を学ぶ方々社会福祉専門職を目指すか否かを一切問わず、社会福祉の本質を考究する入口・手掛かりとして、人権と福祉的諸課題（要介護・“しょうがい”・貧困）とを関連しながら講義します。また併せて、それへの感想等について、受講者がゆっくりと考え、話し合える場となればと考えております。	1) 人権と福祉の基本的事項について説明できる。 2) 社会福祉実践と社会福祉学研究の根源的課題の基本的枠組みが説明できる。 3) 社会福祉学をより深く学びたいと思う。	○	◎	◎	△	○		△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AH1050	社会福祉学入門	社会福祉の概念とその理念を、史的展開に基づいて理解する。 現代社会の福祉的課題とそれに対応する制度について理解する。 社会福祉の専門性について、いくつかの枠組みを通して理解する。	1) 社会福祉の概念が説明できる。 2) 現代社会における社会福祉制度の役割とその概要を説明できる。 3) ソーシャルワーク（社会福祉実践）の枠組みが説明できる。 4) ソーシャルワークの過程、技術、実践をイメージし、具体的に説明できる。	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
DA2050	社会福祉の基礎	社会福祉の概念とその理念を、史的展開に基づいて理解する。 現代社会の福祉的課題とそれに対応する制度について理解する。 社会福祉の専門性について、いくつかの枠組みを通して理解する。	1) 社会福祉の概念が説明できる。 2) 現代社会における社会福祉制度の役割とその概要を説明できる。 3) ソーシャルワーク（社会福祉実践）の枠組みが説明できる。 4) ソーシャルワークの過程、技術、実践をイメージし、具体的に説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
AJ1038	歴史を読み解く	歴史とは、過去から現在にいたる人間の活動の総体である。別の表現をすれば、現在、私たちが暮らしている世の中はどのようにしてきたのか、ということを読み解くかそうとする試みである。過去と現在を結び付け、それによって現在と未来の人間の在り方を考えるのが、歴史を学ぶ意義であろう。そのための手がかりが「史料」である。史料は、過去の歴史を明らかにする時には欠かせない材料であり、あらゆる歴史の記述は史料に基づいて書かれている。本講座では、テキストに掲載された史料（口語訳）を丹念に読み、そこから歴史の意義や時代の背景・動向を汲み取ることで、歴史を学ぶ面白さを感じ取ってもらいたい。 【スクーリングで学ぶ内容】 1 邪馬台国、3 遣隋使の派遣、5 国分寺建立の詔、6 大仏造立の詔、11 北条泰時書状、15 惣掟、16 山城国一揆、19 太閤検地、20 刀狩令、23 バテレン追放令、24 鎮国令、28 海国兵談、29 異国船打払令を中心に学ぶ。 【教科書・レポート学習で学ぶ内容】 2 大化改新、9 院政の開始、10 平家物語、18 樂市令、22 武家諸法度、23 禁中並公家諸法度、25 百姓に対する生活統制、27 身分社会への批判、33 王政復古の大号令、34 五箇条の誓文、36 学事奨励に関する太政官布告、37 民撰議院設立の建白、38 大日本帝国憲法、44 日本国憲法、46 日米相互協力及び安全保障条約を中心に学ぶ。	1) 基本史料を丹念に読みこむことができる。 2) 基本史料の背景や歴史的意義を知り、その史料を歴史の流れの中でとらえることができる。 3) 教科書等に記された歴史の根拠を考える姿勢を身に付ける。 4) 日本の歴史に興味関心を高め、自ら調べようとする姿勢を身に付ける。	◎	△	◎	×	△	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	

AK1005 AK1039 AK1042	生命の科学	科学の発達により、生物、特にヒトの生命に対する理解は著しく進歩しており、その仕組みや現象の背景が解明されています。そして、そのような知識は、医療はもとより対人関係や福祉、社会の構築、環境も含めた社会問題の解決などを通じて人類全体に還元されています。生命の科学ではヒトの生命活動を支える仕組みについて、その一つ一つが単純な仕組みの積み重ねによって成り立っていることを確認しながら、生命の全体像に迫るように意識して学んでいきます。さらに、それらの理解に基づき、自己や社会集団の健康づくり、他者との関係性の向上、社会や環境の改善への働きかけなどについて考究することを通して、現代の諸課題に向き合う素養を得ることを目指します。 【教科書・レポート学習で学ぶ内容】 ヒトの生命を支える基本的な生理的機能を学び、その知識に基づき健康の実現や、より良い人間社会のあり方を考究します。 【スクーリングで学ぶ内容】 教科書の内容に加えて、関連するニュース記事や映像資料などを提示して理解を深めます。	1) ヒトの生命を支える基本的な生理機能と、その成長発達・加齢に伴う変化について説明できる。 2) ヒトの身体運動のメカニズムについて説明できる。 3) 脳の基本構造とその機能について説明できる。 4) 生命を良好に維持するための仕組み（免疫系の働きやストレス反応など）について説明できる。 5) 1)～4)の知識に基づき、より良い人間社会を構築するための方策を提案することができる。	◎	△	◎			△	○	△	△	△	△
AK1016	健康科学	健康・保健・医療・福祉の分野を専門的に習得するにあたっては、私たちのライフスタイルの変化と健康への認識について洞察を深める必要があります。本科目ではまず、「加齢」についての理解を深めつつ、前半で、健康と結びつきが深い栄養と運動について学習します。その上で後半では、健康であるために必要とされる、さまざまな実践や運動行政施策を通して身体・運動・文化に関する基本的認識を養い、日常における健康への意識や健康活動における必要性の理論修得を目的とします。	・健康を目指すうえでの栄養と運動の必要性について述べるができる。 ・日常生活と運動習慣の関係性について説明できる。 ・運動やスポーツ実践にともなう効果や弊害について解説できる。 ・地域における事例や社会的変遷を加えながら「健康観」について述べるができる。 ・地域や社会における健康行政施策について、事例を用いて説明できる。 ・国民のライフスタイルの変化にともなう健康増進対策等について解説できる。	◎	○	○	△	△	△	◎	◎	○	○	○
AK1040	睡眠改善学	日本人の睡眠は、世界でも最短、かつ不眠など睡眠に問題を抱える人口の存在も世界有数であることが、いくつかの報告から示されている。睡眠は、誰もが経験し、その人なりに何らかの感覚・経験を有する事象である。また、性、年代、職種等の様々な集団において特有の睡眠問題が存在することも指摘されている。睡眠は必要不可欠であると同時に、より快適な気持ちの良い睡眠を求める欲求もあるため、睡眠に関する様々な情報・商業活動などが展開されている。一方、科学的な根拠に基づいた睡眠に関する教育・知識啓蒙は十分とはいえず、間違った認識から睡眠が不十分となり、健康被害・ヒューマンエラーなどに至るケースも懸念される。本科目では、一晩の睡眠構造や睡眠調節の仕組み、睡眠に影響する要因などに関する知識を元に、より良い睡眠を得るための日常生活での工夫について学ぶ。スクーリングにおいては、受講生自身の睡眠評価、受講生他の生活状況に基づいた、より具体的な事例についても学習を進める。	1) 睡眠ポリグラフ、睡眠ポリグラフから判定される睡眠段階、および一晩の睡眠構築の説明ができる。 2) 生体リズムを調節する要因を上げることができ、これら要因に関する快適睡眠のための留意点を説明できる。 3) 睡眠に影響する日中の環境・行動要因を上げることができ、これら要因に関する快適睡眠のための留意点を説明できる。 4) 温湿度、騒音、光などの睡眠環境と睡眠の関連を説明でき、これらに関する快適睡眠のための留意点を説明できる。 5) 発育・発達および加齢に伴う睡眠の変化を説明でき、それぞれの年代における睡眠問題・留意点を説明できる。	◎	△	◎	○	△		△	○	○	△	△
AL1011	コミュニケーション英語	英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とします。特にリスニングとスピーキングに重点を置きますが、語学力向上に不可欠であるリーディングと単語学習や、意見や経験などを表現する簡単なライティングも行います。 教材はオンライン版教材もしくは冊子版教材を使用します。オンライン版教材は音声、画像、動画、文章などを用いたオンライン学習（「Touchstone Online Course」）ですので、実践的で興味深い内容となっており、使用方法も平易です。各自が設定した目標に向けて、自らのペースで何度でも繰り返し学習ができます。メールを通じて担当教員と頻りにコミュニケーションを行います。 冊子版教材ではだいたい同じ内容の学習をすることができますが、オンラインの方が学習サポート、フィードバック、スピーキング練習、コミュニケーションチャンスなど、たくさんありますからお勧めです。冊子版はレベル1Aや1Bからの選択になりますが、オンライン版はレベル1からレベル4まで（各A、B）から自分のレベルに合わせて選べます。 スクーリングでは、多彩な英語アクティビティ（コミュニケーション、リスニング、リーディング）をします。	自宅でのレポート学習をもとに、スクーリング講義でほかの学生と一緒に学ぶことにより、実際に役立つコミュニケーション力を身につけ、実践することができる。				◎	◎	△				○	
AS1028	スポーツの心理学	「根性」って何だろう？大事な試合になればなるほど緊張するのはどうして？ベストなパフォーマンスを発揮するためにはどうしたら良い？など、スポーツ場面で感じる疑問を心理学として考えていく。 過緊張によりパフォーマンスにマイナスの影響が出ることを防ぐリラクゼーション法や集中力を鍛えるメンタルトレーニングなどを実践し、スポーツ場面以外でも活用できるメンタルコントロール手法を身につける。社会心理学的要素のチーム理論やリーダーシップ、教育心理学的要素を含むスポーツ指導法などに関しても社会生活の中で応用できるような学びを目指している。 名指導者の独特の指導法やトップアスリートの思考を例に挙げ、それらがどのような意味や効果を持つのか解説する。	1) スポーツに関する諸事象について心理学的に分析しスポーツの技術と競技力向上に必要な心理学的要素を論じることができる。 2) リラクゼーション法を身につけて日常でも実践できるようにする。 3) 指導者（リーダー）に必要な要素を理解し社会で活かす方法を考え出すことができる。		○		◎			◎	○			
AT1029	特講（地域と生活）	この授業では、地域と生活を切り口に、日本民俗学や村落社会学の社会観の獲得を目指します。人口減少社会やグローバル市場の最前線にある現代農山漁村において、それでも地域生活を再編していく人々の英知に接近します。本講義では、英雄ではなく、「普通」の人々（私たち）の日常に埋め込まれた「創造性」に接近する術や学ぶ術を獲得することで、これまでとは異なる「世界の見え方」を獲得していくことを目的とします。	これまでとは異なる、もう一つの視点から社会・世界を見ることができるようになる。	○	◎	◎	◎	○		○	◎	○	○	○

● 専門必修科目・専門選択科目

科目コード	科目名称	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係 (◎特に重要、○重要、△望ましい)										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
CA3104	社会福祉原論(職業指導を含む)	社会福祉にかかわる全般的な基礎知識の学修と、社会福祉観の変遷についての理解を目的とします。「社会福祉」という言葉は広く使われるため、その実態の学問的把握は曖昧になりやすく、ともすると主観的な幸福論や通俗的な人生論に終始しやすいため、多様な社会福祉事象および具体的な社会福祉実践の本質は、まぎれもなく他者の人生へのかかわりであり、理念的には人類史上の文化的創造の営為の一つとも解せず。したがって、「社会福祉原論」では社会福祉に関する専門用語・知識の確認に留まらず、常に「社会福祉とは何か」「社会福祉をいかに捉えていくのか」等を思考しながら学修することを望みます。大切なことは、自らの社会福祉観の涵かん養ようにあるといえます。	1) 社会福祉の全般的な基礎知識（社会福祉士・精神保健福祉士国家試験科目『現代社会と福祉』の合格水準）を解説できる。 2) 社会福祉の歴史の概要を説明することができる。 3) 社会福祉の思想に関して理解し、説明することができる。	○	◎	◎	○	○	○	△	△	△		
CA3105	地域福祉論	わが国の社会福祉は、大きな転換期にあります。特に、社会福祉基礎構造改革をはじめ、地方分権の推進や規制緩和による福祉サービス供給体制多様化などの状況の中で、地域福祉の推進のあり方が問われてきています。 21世紀の社会福祉は「地域福祉」にあるといわれており、これからの社会福祉の目標や方法は、新たな視点を十分意識し、地域社会を基盤に考えていかなければなりません。理論および社会的な背景や歴史的考察、また海外比較などを通してできるだけ多角的に地域福祉を理解するとともに、あわせて各地で展開されている地域福祉実践からも学びを深めていく必要があります。その上で、いま地域福祉の何が問題になっているのかを考察しながら、地域住民や最前線で活躍しているソーシャルワーカーをはじめとする実践者の取り組みなどを通じて具体的に学んでいきます。 この科目では『地域福祉の理論と実際』というテキストを使用します。テキストでは、地域福祉の基本的な考え方、理論、地域福祉の推進を図る実践方法についての理解などの内容となっております。地域社会とそこで生活する地域住民の理解には、幅広い知識も必要です。社会福祉士受験科目の他の指定科目とあわせて学習してください。資格取得を目指す人はもとより、そうでない人も社会福祉に関する基本的な知識に関する科目として貪欲に学んでいただきたいと思えます。	1) 地域福祉の必要性をふまえて、理念および基本的な理論を説明することができる。 2) 地域福祉に関する課題を把握し、解決に向けた方向性を見出すことができる。 3) 地域福祉の展開手法や具体的な推進方法に関して説明することができる。	◎	○	◎	△	○	△	◎	△	○	◎	○

CA4107	社会保障論	<p>私たちの国の社会保障制度は、進展している少子高齢化のなかで構造的な転換期を迎えており、「社会保障革命」といふべき各種の見直しが行われています。例えば、2000年には介護保険が創設され、近年においても年金制度や医療（保険）制度なども改革の道を歩んでいます。まさに新しい生活保障システムが求められている時代ともいえるでしょう。とはいえ、「構造的な転換期」だからこそ原点に立ち返り、「社会保障とは何か」の古典的な議論も必要であると思われる。</p> <p>そこで、本科目においては、社会保障の考え方や歴史等を踏まえて、「社会保障とは何か」をともに考え、その上で、各種社会保障制度の現状と課題について学んでいただきたいと思います。</p>	<p>1) 社会保障における理念を説明することができる。</p> <p>2) 社会保障制度の仕組みと問題点を端的に説明することができる。</p> <p>3) 日常生活のなかでの社会保障の役割を説明することができる。</p> <p>4) 少子高齢社会におけるあるべき生活保障システムを自らの言葉で説明することができる。</p>	◎	△	◎						△	○	○	◎	△
CA4108	公的扶助論	<p>わが国は、「豊かな社会」といわれています。では、「貧困」は解消されたのでしょうか。確かに各種の社会保障制度が整備・充実されたことによって、公的扶助（生活保護）の受給者は、敗戦直後から比較すると一時期においては減少してきました。しかし、近年は景気の低迷、雇用環境の悪化などを背景にして、国民生活の不安は深化し、格差も拡大しています。その結果、生活保護の受給者も増加傾向をみせています。その意味では、「貧困」問題は国民生活の身近なところにあるといえるでしょう。このような現状を考えると、国民生活のラスト・セーフティ・ネットとして位置づけられている公的扶助は、依然として私たちの生活において重要な役割を果たしていると思います。</p> <p>そこで本科目においては、このような問題意識のもと、国民生活を保障する最終的な救済手段である公的扶助（生活保護）に関して、現代社会の貧困の様相と生活保護の考え方、制度の内容、実質的な実施機関となる福祉事務所の現状と課題などを学んでいただきたいと思います。</p>	<p>1) 多様な貧困の様相から現代社会の問題点を説明することができる。</p> <p>2) 生活保護制度の仕組みを説明することができる。</p> <p>3) 生活保護制度が抱える問題を自らの言葉で表現することができる。</p> <p>4) あるべき貧困対策を主体的に考えることができる。</p>	◎	◎	◎	△				△	○	○	◎	○	
CB3063	福祉法学	<p>福祉法学の科目は、科目名称の示すように社会福祉の仕事を行うにあたって必要とされる法学的な知識を、概括的に学ぶことを目的として設置されたものです。社会福祉の仕事を行う場合には、まず社会の一般市民としての部分を基礎に、社会福祉の部分の積み上げられた内容であることが求められます。法とは何か、それを理解する歴史的な知識、現行法令としての基本法（憲法、民法、行政法）、社会福祉サービス事業を行うに際しての最低限の知的情報（情報公開、権利擁護制度）などが、この福祉法学の科目における講義内容です。2009年度からは成年後見制度及び更生保護制度の知識が新たに加わった講義内容になります。</p>	<p>1) 福祉法学の制度概要について述べるができる。</p> <p>2) 基本的人権の制度趣旨（特に自由権・社会権）を、判例を踏まえて、説明することができる。</p> <p>3) 成年後見制度の意義と活用方法について説明できる。</p> <p>4) 憲法、民法、行政法の制度体系について説明することができる。</p>	◎	◎	◎	○	○				○	△	◎	◎	
CB3102	福祉法学	<p>福祉法学の科目は、科目名称の示すように社会福祉の仕事を行うにあたって必要とされる法学的な知識を、概括的に学ぶことを目的として設置されたものです。社会福祉の仕事を行う場合には、まず社会の一般市民としての部分を基礎に、社会福祉の部分の積み上げられた内容であることが求められます。法とは何か、それを理解する歴史的な知識、現行法令としての基本法（憲法、民法、行政法）、社会福祉サービス事業を行うに際しての最低限の知的情報（権利擁護制度、成年後見制度）などが、この福祉法学の科目における講義内容です。</p>	<p>「福祉法学」の内容</p> <p>1) 福祉法学の制度概要について述べるができる。</p> <p>2) 基本的人権の制度趣旨（特に自由権・社会権）を、判例を踏まえて、説明することができる。</p> <p>3) 成年後見制度の意義と活用方法について説明できる。</p> <p>4) 憲法、民法、行政法の制度体系について説明することができる。</p> <p>「更生保護制度論」の内容</p> <p>1) 更生保護制度の制度概要について説明することができる。</p> <p>2) 保護観察の制度趣旨と問題点について説明することができる。</p> <p>3) 更生保護制度と社会福祉の関係性について、事例を挙げて解説できる。</p> <p>4) 医療観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。</p>	◎	◎	◎	○	○				○	△	◎	◎	
CC2101	福祉社会学	<p>複雑化した社会構造のなかで暮らす国民の生活福祉問題を分析すると、戦後のわが国における社会構造は大きく変化しており、それにもなつて数多くの社会生活のひずみ現象（社会的犯罪、麻薬、アルコール疾患、子供の自殺・老人の自殺、家庭崩壊、援助交際など）が産出されています。</p> <p>2011.3.11東日本大震災は、被災地はもとより、わが国の社会をあらためて考えさせる大きな要因にもなりました。今後、わが国は超高齢・少子化、高度情報化、国際化が進捗して、家族関係や地域社会における生活環境が一層複雑な様相を呈するものと予想されるだけに、今後の社会保障政策や社会福祉政策にも大きく影響を与えることは確かです。それゆえに現代社会が生み出す社会現象をより包括的にとらえながら、「発展社会から成熟社会への変換」を目指した福祉社会学を構築していくことが重要かと思われれます。</p> <p>本講義では、こうした国民の生活周期に生起する新たな諸問題に対応すべき社会福祉の援助過程に関わる社会的行為や社会政策などを社会学的な視点から現状分析することによって、今日の生活問題を規定している諸要因やそれらの相互連関を体系的に究明しながら、今後の社会福祉の役割と機能について検証する内容にしたいと考えています。</p>	<p>個人の暮らしと社会構造の変動を社会福祉との関連で捉え、その意義について理解して説明できる。</p>	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
CC2103	福祉心理学	<p>現代の日本社会は、まさに「ストレス社会」であるといえます。そのストレス社会を生き延びるのはそう簡単なことではありません。現に複雑・多様化する日本社会にあつて、「心」の悩みを抱えている人が急速に増加してきていることがよい例でしょう。</p> <p>福祉心理学は、社会的に弱い立場にいる人々の心の問題を受容し、理解しながらどのような関わりができるかを探る、「福祉」と「心理」の融合を目指した新しい学問です。実際的には、福祉の世界に「心理学」の知見を活用し、人々の「生活の質」（QOL）を向上させ、幸せの追求を援助するための方法について学んでいきます。</p>	<p>1) 一人一人の幸せ追及とQOL（生活の質）の向上に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。</p> <p>2) 「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法を解説することができる。</p> <p>3) 福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。</p> <p>4) 虐待についての基本的知識を身につける。</p>	○	◎	◎	◎	◎		○	○	○	○	◎		
CC3079	医学一般	<p>日本人の死因は、食生活や運動、嗜好など、日常生活上の不健康な生活習慣の積み重ねによる生活習慣病と深くかかわっています。また、加齢に伴う生理機能の低下は、疾病を生じやすくします。社会福祉に従事する人にとって、医療の基礎的な知識を持つことは不可欠ですが、私たちがより健康的に生活する上でも、人体や老化、疾病などについて理解することは大切です。福祉関係職種に従事することを目指している人は、利用者の医療と一緒に考えることができるように心がけて学んでください。</p> <p>本科目では、基本的な人体の構造と機能を理解した上で、直面する頻度の高い障害や疾病について医学的に理解します。学んだ知識を、日々の生活に生かせるような、応用がきく生きた勉強を心がけてください。</p> <p>医学一般は、予防対策や行政の取り組みなど、医療にかかわる広範囲な内容を含みますが、単位が4単位から2単位に減少したため、障害、リハビリテーション、国際生活機能分類（ICF）など、他の科目と重複する分野については、レポート課題には入れませんでした。しかし、非常に重要な分野ですので、教科書をしっかりと読んでおいてください。予防対策や感染症、生活習慣病など、「公衆衛生学」と重複しますので、「公衆衛生学」のレポート課題を参照して、より深く学ぶことをお勧めします。</p>	<p>1) 人体の主な器官の生理的機能について説明できる。加齢に伴う生理的機能の低下と、高齢者に多い疾患（慢性腎臓病、高血圧、誤嚥性肺炎など）との関連について説明できる。</p> <p>2) 免疫（特に液性免疫）や自律神経による身体の機能調節について説明できる。</p> <p>3) 大脳の機能と関連させて考え、認知症の中核症状と、主な原因疾患について説明できる。</p> <p>4) 生活習慣病および、生活習慣との関連について説明できる。主な生活習慣病について説明できる。メタボリック症候群と関連させて説明できる。日本人の死因と関連させて説明できる。</p> <p>5) 介護保険の特定疾病について説明できる。高齢者に多い神経疾患と精神疾患の特徴を説明できる。</p>	◎	△			△							◎	
CC3106	医学一般	<p>日本人の死因は、食生活や運動、嗜好など、日常生活上の不健康な生活習慣の積み重ねによる生活習慣病と深くかかわっています。また、加齢に伴う様々な体の変化は、疾病を生じやすくします。社会福祉に従事する人にとって、医療の基礎的な知識を持つことは不可欠ですが、私たちがより健康的に生活する上でも、人体や老化、疾病などについて理解することは大切です。福祉関係職種に従事することを目指している人は、利用者の医療と一緒に考えることができるように心がけて学んでください。本科目では、基本的な人体の構造と機能を理解した上で、直面する頻度の高い障害や疾病について医学的に理解します。さらに、予防対策や行政の取り組みなど、医療にかかわる広範囲な内容を、「医学一般」として学びます。単位修得、国家試験や仕事のためだけでなく、学んだ知識を日々の生活に生かす、生きた勉強を心がけてください。</p>	<p>1) 加齢に伴う生理機能の低下と、高齢者に多い疾患（慢性腎臓病、高血圧、誤嚥性肺炎など）との関連について説明できる。</p> <p>2) 高齢者に多い疾病および症状の特徴について説明できる。</p> <p>3) 免疫（特に液性免疫）について説明できる。</p> <p>4) 大脳の機能と関連させて考え、認知症の中核症状と、主な原因疾患について説明できる。</p> <p>5) 生活習慣病および、生活習慣との関連について説明できる。主な生活習慣病について説明できる。メタボリック症候群と関連させて説明できる。</p> <p>6) 介護保険の特定疾病と、高齢者に多い神経疾患と精神疾患の特徴を説明できる。</p> <p>7) 寝たきりになる主な原因や、廃用症候群について説明できる。</p> <p>※スクーリング受講者は『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』『保健医療サービス論』欄の「到達目標」もご確認ください。</p>	◎	△			△							◎	

CC4080	福祉行政と福祉計画	福祉行政では、国・都道府県・市町村の役割や国と地方との関係に留意しながら社会福祉行政の実施体制を学びます。また、国と地方における財政のポイントを整理しながら、福祉財政の現状や動向を見ていきます。福祉計画では、福祉計画の意義や目的を理解しながら、具体的な福祉計画（地域福祉計画、老人福祉計画、介護保険事業計画、障害者計画、障害福祉計画および次世代育成支援行動計画）の内容や特徴について学びます。	1) 福祉行政の組織および国と地方自治体の関係について説明できる。 2) 社会保障関係費や民生費の現状を説明できる。 3) 福祉行政を担う専門機関や専門職について説明することができる。 4) 具体的な福祉計画について根拠法と関連付けて解説できる。	◎	△	◎				△	△	○	○	○
CD2118	障害者福祉論	本科目では、障害者福祉の基礎知識や、その背景にある理念や概念を理解することにより、障害者への福祉的援助を行う際の基本的な考え方や基盤を築くことを学習のねらいとしています。障害者福祉とはどのようなものかということを理解するために、まず、障害者理解のための基本的知識や考え方を学習します。そして、障害者福祉施策の展開とその特徴について概観し、実際に福祉援助を行う上で必要な知識と方法について習得します。	1) 障害者福祉の理念と障害の概念について説明することができる。 2) 障害当事者を取り巻く現状や、これまでの歴史を踏まえ、当事者が抱える問題への認識を深めつつそれらを説明できる。 3) 障害者福祉制度、関連施策への理解を深め、当事者が抱える問題の軽減、解決に向けた取り組みについて説明できる。 4) 何が「障害」かということに関して、身近な体験や様々な事例を通じ、自分の言葉で伝えることができる。		◎	◎	○						○	
CD4075	保健医療サービス論	「保健医療サービス論」は、社会福祉士受験科目「医学一般」を新たに再編したものです。したがって、本科目は、少子高齢化、疾病構造の変化等に伴う各種制度の改変とニーズの多様化に合わせ、改めて社会福祉士に必要な学習領域を示したものと理解できます。 本講義では「保健医療サービス」の基礎知識とソーシャルワークの歴史やケースワークの技術、価値、多職種との連携等について学びます。主として、①保健医療サービスのシステム、②専門職の役割、③社会資源との連携、④保健医療分野のケースワーク理論等です。スクリーニングでは、医療ソーシャルワーク、ケアマネジメントの実務事例にふれながら、わかりやすく解説します。	1) 保健医療サービスの構成要素や歴史、機関間連携とSWの役割を述べることができる。 2) 医療法や診療報酬、介護保険法における施設の機能や類型を説明できる。 3) 保健医療サービスにおけるMSWの歴史と業務内容を解説できる。 4) 保健医療サービスの関連専門職の業務内容やMSWの基本的姿勢を説明できる。 5) 保健医療サービスにける各種社会資源（健康保険や高額療養費等）を解説できる。	◎	○	◎	△	△		△	△	○	○	○
CE3070	社会福祉援助技術総論	「相談援助」とは何でしょうか。また、「ソーシャルワーク」とは何でしょうか。今日、日々変化し続けている社会生活の中で、人々が抱えているニーズも多種多様化しています。ニーズに応えるための相談援助とはいかにあるべきものでしょうか。相談援助に携わる専門職とはどうあるべきものでしょうか。ここでは、それらを明らかにするために、①社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。②精神保健福祉士の役割と意義について理解する。③相談援助の概念と範囲について理解する。④相談援助の理念について理解する。⑤相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。⑥相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。⑦総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。以上を主な学習のねらいといたします。	1) 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について説明することができる。 2) 精神保健福祉士の役割と意義について説明することができる。 3) 相談援助の概念と範囲について説明することができる。 4) 相談援助の理念について説明することができる。 5) 相談援助における権利擁護の意義と範囲について説明することができる。 6) 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について説明することができる。 7) 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について説明することができる。	○	◎	◎	◎	◎	△	◎		○	△	△
CE3071	社会福祉援助技術論A	ソーシャルワーク実践は現在、これまでにない厳しい局面に立たされています。時代社会の変化と連動して、支援の対象となる「人」「問題」「状況」のいずれもが、いっそう複雑化し、既存の社会福祉制度では容易に対応しきれない社会問題、生活問題の深刻化・多様化・拡大化が進んでいます。また、援助専門職による利用者・当事者に対する「不適切なかかわり」や事故、不祥事は後を絶ちません。 さらに、援助専門職が「権利擁護」「命の尊厳」「排除しない福祉」あるいは「自立支援」等々の必要性を熱く語ろうとも、現実的に「必要とされる支援」が提供されていないと感じている利用者・当事者が、福祉サービスや援助専門職のあり方に対して疑問、憤りあるいは不信の眼差しをより強く注ぎ始めているように感じられます。 まさに「当事者の時代」が標榜されている今日的状況の中で、ソーシャルワークの理論と実践が利用者・当事者の「生活」や「生」にどれだけ接近してきたのか、あるいは接近することができるのか問われているといえるでしょう。 また、1987年の制定後20年の歳月を経て2007年に「社会福祉士及び介護福祉士法」が初めて改正され、「実践力の高い社会福祉士」及び「総合的かつ包括的な相談援助」ができる社会福祉士が求められています。 このような時代社会状況であるからこそ、ソーシャルワークでしかできないこと、またソーシャルワークがやらなければならないことがあるはずで、本科目の学修を通して、相談援助を行う上で必要な知識・方法の修得に留まらず、自らの「ソーシャルワーカー・アイデンティティ」と「援助観」の構築に励んで頂きたいと思っています。 本科目では、以下の内容について学びます。 1. 「相談援助」とは何か？—概念・構造・機能— 2. 「人と環境の交互作用」とは？ 3. 相談援助における対象の理解 4. 相談援助における「援助関係」—概念・意義— 5. 相談援助の展開過程 6. 相談援助に必要な技術—意義・目的・方法・留意点— アウトリーチ、契約、アセスメント、介入、モニタリング・再アセスメント・効果測定・評価、面接、記録、交渉	1) ソーシャルワークの定義、枠組み、および構成要素（特に価値、知識、技術の関係性）について説明することができる。 2) ソーシャルワークの構造と機能について説明することができる。 3) 相談援助における援助関係の定義について説明し、援助関係の質と自己覚知との関係性について解説することができる。 4) 相談援助の展開過程の流れ、およびそれぞれの展開過程の内容について説明することができる。 5) アウトリーチ、契約、アセスメント、介入、モニタリング・再アセスメント・効果測定・評価、面接、記録、交渉の各技術の意義と目的について説明することができる。	○	◎	◎				○	◎			
CE3072	社会福祉援助技術論B	「社会福祉援助技術論A」の項をご参照ください。 本科目では、「社会福祉援助技術論A」の学修内容を踏まえた上で、以下の内容について学びます。 1. 様々な実践モデルとアプローチ 2. ケースマネジメントとケアマネジメント 3. グループを活用した相談援助 4. コーディネーションとネットワーク 5. 社会資源の活用・調整・開発 6. スーパービジョンとコンサルテーションの技術 7. ケースカンファレンスの技術 8. 事例研究・事例分析—意義・目的・方法・留意点— 9. その他	1) 相談援助において対象をどのようにとらえるかについて述べることができ、さらに対象理解に際して援助専門職に必要な姿勢、専門性について解説することができる。 2) ソーシャルワーク実践理論の分化・多様化の動向を踏まえたうえで、実践モデルと実践アプローチの意味と内容について解説することができる。 3) 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルの特徴について述べることができ、さらにジェネラリスト・ソーシャルワークにおける三つの実践モデルの活用の仕方について解説することができる。 4) 従来の実践アプローチ（心理社会的、機能的、問題解決、課題中心、危機介入、行動変容）の発展史を踏まえたうえで、新興アプローチ（エンパワメント、フェミニスト、ナラティブ、EBSW）の内容、及び注目されるに至った社会的背景と意義について説明することができる。 5) ケースマネジメント、グループ活用、コーディネーションとネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、スーパービジョンとコンサルテーション、ケースカンファレンス、事例研究・事例分析の各技術の意義と目的について説明することができる。	○	◎	◎				○	◎			
CE4073	社会調査の基礎	社会福祉実践における社会調査の役割は、近年ますます重要になっています。間接援助技術として強調されていた時代には、主にメソ、マクロ領域を中心に用いられていました。しかし、近年ではリサーチに基づくソーシャルワークあるいはエビデンスに基づくソーシャルワークといった概念にみられるように、ミクロ領域を含む全ての社会福祉実践の領域に社会調査の知識と技術が必要とされています。 本科目では、主に以下の内容について学びます。 ①社会福祉における社会調査の役割 ②社会調査の概要 ③社会調査の方法（量的および質的分析） ④統計法、社会調査における倫理と個人情報保護	1) 社会福祉調査の意義を近代史に位置付けて述べることができ、今日におけるその目的を説明できる。 2) 統計的方法の基礎を理解し、調査の枠組みが組めるようになる。 3) 調査票を作成したり結果の分析の方法に関する留意点が説明できる。 4) 少数事例実験計画や質的調査法について、社会福祉実践の評価と関連付けて説明できる。 5) 各種統計を統計法も参照しながら活用することができる。	◎	◎	◎	△	△	○	△	○	○	◎	○



CL2066	児童・家庭福祉論	子どもは、社会の一員として人権が保障されていると同時に、すべての子どもが児童家庭福祉の対象です。本科目は、子ども家庭を取り巻く社会現象や生活環境の背景について理解するとともに、児童家庭福祉に関する法とサービス、子ども・家庭に対する援助活動について学習します。児童家庭福祉は子どものみを対象とするのではなく、子どもを取り巻く家庭・家族のテキストでも取り上げられるようにウェルビーイングという視点から考えることが大切です。したがって、児童家庭福祉は子育てをする家族や地域社会のあり方が重要な要素といえます。子どもがのびのびと成長でき、家族が安心して子育てできる地域社会は、地域住民にとっても暮らしやすい社会といえます。 こうした背景から、本科目では児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要、一人親家庭、児童虐待およびDV、地域における子育て支援および子どもの青少年育成の実態について理解します。	1) 児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の児童家庭施策の全体像を理解しその内容を説明することができる。 2) 多岐にわたる児童に関する法律や制度を把握し、保育や社会福祉援助技術につながる知識を身につけることができるようになる。	◎	◎	◎	○	○	△	△	○	○	○	○
CL2116	児童福祉論	※この科目は、平成20年度以前入学者に対して開設されている科目です。平成21年度以降に入学した方は履修することはできません。※この科目は、「児童・家庭福祉論」と同じ内容です。科目内容・レポート課題等は『レポート課題集A(社福・精保指定科目編)』『児童・家庭福祉論』を参照してください。		◎	◎	◎	○	○	△	△	○	○	○	○
CL2117	高齢者福祉論	高齢者福祉の理念および目的について学習し、あわせて現行の高齢者福祉施策の体系の全般的理解とその課題について考察します。具体的な内容は、次の通りです。 (1)高齢者の特性について理解する。 (2)少子高齢化と高齢者を取り巻く諸問題について学習する。 (3)高齢者保険福祉の発展と体系について学習する。 (4)高齢者支援の関係法規について学習する。 (5)介護保険制度の基本的枠組みを理解する。 (6)介護保険制度の仕組みとサービスの体系を理解する。 (7)高齢者を支援する組織と役割について学習する。 (8)高齢者支援の方法と実際、専門職の役割を理解する。	わが国の高齢者福祉の現状と課題を理解し説明することができる。 ※スクーリング受講者は『レポート課題集A(社福・精保指定科目編)』『介護概論』欄の「到達目標」もご確認ください。	○	○	◎	○	○	△	○	◎	◎	○	
CL2120	介護概論	要介護者の生活支援においては、その援助に医療、保健、福祉などの分野が包括的にかかわってきます。本講では、まず、要介護者に対する介護とはどのようなものなのかを理解するために、前半では、要介護者理解のための福祉的援助の考え方や基本的知識を学習します。これを踏まえて、後半では、生活援助を展開する上で必要となってくる専門的知識や方法論の概説、ならびにその実際を取り上げることにより、生活支援技術の基礎理論を習得することを目的とします。	1) 介護を取り巻く社会的背景について説明できる。 2) 「介護」をどのように定義づけるのか、介護の概念について説明できる。 3) 介護の範囲の考え方と専門性に求められる資質について説明できる。 4) 介護過程の仕組みについて説明できる。 5) 認知症の原因と症状を踏まえ、認知症高齢者の対応方法について説明できる。 6) ターミナルケアについて生活の質の観点から説明できる。	◎	◎	◎	○	○	△	△	○	◎	◎	
CM3069	更生保護制度論	更生保護とは、犯罪や非行に陥った者の改善更生を図るため、社会内で必要な指導監督、補導援助の措置を行い、また、一般社会における犯罪予防活動を助長することによって、犯罪や非行から社会を保護し、個人及び公共の福祉を増進することを目的としています。つまり、「再犯の防止」「改善更生」という2つの特別予防目的を掲げて、これを車の両輪のように活用することによって「社会の保護」という一般予防目的を達成し、それによって「個人及び公共の福祉を増進する」ことを目的としています。 本科目では、特に近年急増している高齢犯罪者と少年非行の事例を挙げて、刑事司法・少年司法分野で活躍する組織、団体及び専門職、刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について、具体的に学んでいきます。なお、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の必須の科目のため、受験する方は受講をおすすめします。	1) 更生保護制度の制度概要について説明することができる。 2) 保護観察の制度趣旨と問題点について説明することができる。 3) 更生保護制度と社会福祉の関係性について、事例を挙げて解説できる。 4) 医療観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。	◎	◎	◎	○	○			○	△	◎	
CM4076	就労支援サービス論	就労支援サービス論は、2007(平成19)年の「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正で新たな科目として加えられました。これまで障害者や生活保護受給者への就労支援という課題を、トータルな社会福祉援助論としての就労支援という視点からまとめたものです。 したがって、労働基準法を中心とした労働者の権利を保障する制度を出発点に、社会福祉の枠組みからの支援の現状を知り、どのような支援がどのような方法で行われるべきかを考えていくことが学習のねらいです。 また、就労を考えることは、これから就職していくみなさん、あるいは現在就労しながら学んでいるみなさんにとっても大きな課題です。自らのこととして問題を捉えていく姿勢も合わせて学んでください。	1) 労働の意味および社会福祉と労働の関係が説明できる。 2) 就労支援の社会福祉における位置づけが説明できる。 3) 現代の労働を取り巻く状況が説明できる。 4) 労働者の権利を保障するための法制度が説明できる。 5) 障害者や低所得者への就労支援の方法と実際が説明できる。	◎	○	○	△	△	△	△	△	◎	○	
CN3082	社会福祉援助技術演習A	この科目では、社会福祉士に求められる相談援助に係る基本的知識と技術について、実践的に習得することを目的としています。単なる理論的な学習だけでは、今日の支援を必要としている人たちが抱える課題の解決やニーズの充足を満たすことは困難といえるでしょう。理論を実践に役立てるためには、専門的援助技術の学習とその体得が不可欠となります。 本演習では、社会福祉援助技術における理論や知識を踏まえた上で、特に、倫理・価値観、面接技法などの基本的なソーシャルワーク実践の方法・技術のいくつかを取り上げ、役割演技、グループ討議などを通し、統合的、主体的に学習することを目的としています。	1) 視点、モデル、アプローチなど社会福祉援助技術の枠組みが説明できる。 2) 社会福祉専門職としての「自己」について、客観的な視点から説明できる。 3) 社会福祉の価値、倫理について説明できる。 4) 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの基礎を身につけ、基本的な面接技術を学習の場で実践できる。 5) 相談援助の過程を事例を通し具体的にイメージすることができる。説明できる。 6) 相談援助の基盤と専門性について説明できる。	◎	◎	◎	◎	◎			○	○	○	
CN4083	社会福祉援助技術演習B	社会福祉士として求められる専門的資質、専門知識、専門技術の習得を図ることを目的とします。社会福祉士に必要とされる専門知識、専門技術の習得や専門職として求められる相談援助の一連の過程について、具体的な事例検討等を通してその内容を熟知します。また、支援計画立案に関しての基本的な知識・技術の習得を図ることに焦点をあてながら、併せて社会資源の活用や、利用者理解、そして社会生活上の課題に対する理解を深めていくことを目的とします。	1) 一連の相談援助過程を具体的にイメージを持って説明でき、その基本的な技術を演習場面において実践できる。 2) 事例などから支援計画を作成することができる。 3) 社会資源の活用やネットワーク形成の技術について具体的に説明できる。 4) プロセス評価、効果測定についてその方法を説明することができる。 5) 社会福祉援助活動で使用される基本的な言葉の意味を的確に説明することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	
CN5084	社会福祉援助技術演習C	社会福祉士として必要である、社会福祉援助技術(相談援助)に係る知識と技術の習得を目指す。個別的な体験を一般化しながら、なおかつ実践的な知識と技術の習得を図ることを目的とします。 また、具体的な事例(社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等)を通して、実際の社会資源を活用も含め、社会福祉援助技術の知識・技術の習得を図ることとします。	1) 虐待や社会的排除などの発生する原因、過程を具体的に説明できる。 2) ミクロからマクロまでの連続体としての支援過程を説明し、その視点で事例の解釈ができる。 3) 地域生活支援を基盤とした地域福祉の方法(ネットワークの形成や支援システムの構築など)を、演習の場で模擬的に実践できる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	
CP3190	社会福祉援助技術実習指導A	社会福祉士として必要な具体的な実践的な専門技術等の習得を図ることを目的とします。また、併せて社会福祉援助技術実習の意義について理解するとともに、児童・高齢者等、実際に実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解をすることを目的とします。 また、次年度の相談援助実習に向けて、実習計画の意義と策定方法を学びます。そして、これまで学修してきた社会福祉学の専門知識を深化させるとともに、各自の援助能力の開発・今後の課題の明確化・自己理解を深める場とし、相談援助専門職としての倫理観を理解する機会とします。	1) 実習をおこなう施設・機関等を利用する地域や利用者の実態、生活ニーズ等について具体的なデータ等を示しながら説明することができる。 2) 実習をおこなう施設・機関等の根拠法、機能、業務内容について説明できる。 3) 実習をおこなう施設・機関等においておこなわれている関連業務の内容や他職種との役割等について説明できる。 4) 「実習計画案」を作成することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	
CP5191	社会福祉援助技術実習指導B	社会福祉援助技術(相談援助)実習の意義について理解し、具体的な実践的な技術等を体得することを目的としています。 相談援助実習にかかわる個別指導ならびに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について、事例等を通じて具体的な実践的に理解し、かつ実践的な技術等を学修します。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得します。 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を併せて修得することを目的とします。	1) プライバシー保護と守秘義務について法的基準や方法の説明ができる。 2) 実習記録の記録内容を理解し、実際に記録できる。 3) 実習施設・機関業務、周辺社会資源について具体的に説明できる。 4) 実習課題を整理し、専門職としての今後の課題を説明できる。 5) 援助技術理論に沿って具体的な社会福祉士像をつくり、他者に伝えることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

CP5907	社会福祉援助技術実習	社会福祉士の実践現場を理解し、総合的に対応できる能力を習得します。利用者及び関係者との円滑な人間関係形成・利用者理解とその需要の把握・利用者理解と支援計画の作成・利用者及び関係者との援助関係の形成・利用者及び関係者への権利擁護・利用者及び関係者への支援（エンパワメント）・利用者及び関係者への支援評価・多職種連携の意義と方法・チームアプローチの実践・実習機関での社会福祉士の役割について、経営サービス、管理運営の実践等の学習を行います。	指定施設において、24日間以上かつ180時間以上の相談援助実習を行うものです。 社会福祉士の実践現場を理解し、総合的に対応できる能力を習得することを目的とします。また、利用者および関係者との円滑な人間関係形成・利用者理解とその需要の把握・利用者理解と支援計画の作成・利用者および関係者との援助関係の形成・利用者および関係者への権利擁護・利用者および関係者への支援（エンパワメント）・利用者および関係者への支援評価・多職種連携の意義と方法・チームアプローチの実践・実習機関での社会福祉士の役割について、経営サービス、管理運営の実践等を学びます。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
CN3130	社会福祉援助技術演習Ⅰ	社会福祉学は「実践の科学」といわれるように、単なる理論学習だけでは実際の援助活動を行うことは困難といえるでしょう。理論を活用し役立てるためには、援助実践の場に具体化していくための援助技術の学習と体得が不可欠となります。社会福祉援助技術とは、さまざまな技術論を実際の援助活動の中で展開するための方法だといえるでしょう。本演習では、社会福祉援助技術論における理論や知識を踏まえた上で、特に、倫理・価値観、面接技法などの基本的なソーシャルワーク実践の方法・技術のいくつかを取り上げ、役割演技、グループ討議などを通し、統合的、主体的に学習することを目的としています。	1) 視点、モデル、アプローチなど社会福祉援助技術の枠組みが説明できる。 2) 社会福祉専門職としての「自己」について、客観的な視点から説明できる。 3) 社会福祉の価値、倫理について説明できる。 4) 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの基礎を身につけ、基本的な面接技術を学習の場で実践できる。 5) 相談援助の過程を事例を通し具体的にイメージすることができ、説明できる。 6) 相談援助の基盤と専門性について説明できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
CN4131	社会福祉援助技術演習Ⅱ	社会福祉士として求められる専門的資質、専門知識、専門技術の習得を図ることを目的とします。社会福祉士に必要とされる専門知識、専門技術の習得や専門職として求められる相談援助の一連の過程について、具体的な事例検討等を通してその内容を熟知します。また、支援計画立案に関する基本的な知識・技術の習得を図ることに焦点をあてながら、併せて社会資源の活用や、利用者理解、そして社会生活上の課題に対する理解を深めていくことを目的とします。	1) 一連の相談援助過程を具体的なイメージを持って説明でき、その基本的な技術を演習場面において実践できる。 2) 事例などから支援計画を作成することができる。 3) 社会資源の活用やネットワーク形成の技術について具体的に説明できる。 4) プロセス評価、効果測定についてその方法を説明することができる。 5) 社会福祉援助活動で使用される基本的な言葉の意味を的確に説明することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
CP5132	社会福祉援助技術現場実習指導	これまで学修してきた社会福祉学の専門知識を深化させるとともに、各自の援助能力の開発・今後の課題の明確化・自己理解を深める場であり、あわせて福祉専門職としての倫理観を理解する機会となります。 1) 事前指導①② 実習計画の作成と事前準備（実習の心構え、対人援助・援助過程等の確認、記録作成）。 2) 事後指導③ 実習体験の意識化・客観化・内面化の作業、抽象化・体系化できる能力の涵養に努める。	1) 実習をおこなう施設・機関等を利用する地域や利用者の実態、生活ニーズ等について具体的なデータ等を示しながら説明することができる。 2) 実習をおこなう施設・機関等の根拠法、機能、業務内容について説明できる。 3) 実習をおこなう施設・機関等においておこなわれている関連業務の内容や他職種の役割等について説明できる。 4) 「実習計画案」を作成することができる。 5) プライバシー保護と守秘義務について法的基準や方法の説明ができる。 6) 実習記録の記録内容を理解し、実際に記録できる。 7) 実習施設・機関業務、周辺社会資源について具体的に説明できる。 8) 実習課題を整理し、専門職としての今後の課題を説明できる。 9) 援助技術理論に沿って具体的な社会福祉士像をつくり、他者に伝えることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
CP5901	社会福祉援助技術現場実習	指定施設において、24日間以上かつ180時間以上の現場実習を行うものです。実習を通し、社会福祉士としての価値や倫理、技術を十分に自分自身のものとしていくことが望まれます。詳細は『社会福祉援助技術実習 課題ノート』に記載の内容と実習係から配付される書類、ならびに前年度の次年度実習ガイダンス、および事前指導スクーリング時に指示されます。	1) 社会福祉士、社会福祉専門職として求められる価値・倫理観および基本的態度を実習を通して示すことができる。 2) 実習機関、施設における相談援助実習を通して、相談援助に関する知識と技術を体験的に理解し、実習指導者の指導のもと、実践することができる。 3) 社会福祉士、社会福祉専門職として求められる自己の課題を実習体験を通じて分析し、今後の課題を明確に述べるることができる。 到達目標の具体的な内容は以下の通りである ①利用者および実習指導者などの関係者との円滑な人間関係の形成ができる。 ②利用者やその家族などとの援助関係の形成ができる。 ③利用者のニーズの把握（アセスメント）及び支援計画の作成ができる。 ④生活場面面接、生活支援などの直接的技術の実践ができる。 ⑤実習記録を用いての実践の評価ができる。 ⑥権利擁護、チームアプローチ、事業の運営管理、地域社会への働きかけなどの技術を体験したり、実践できる。 ⑦社会福祉士、社会福祉専門職としての職業倫理、責任と役割について述べるることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
CQ3136	精神保健学	精神的健康を保持・増進することは、心豊かな生活と生きる喜びを享受することの基礎であります。しかしながら、精神障害の発生をはじめ、現在のような複雑な社会では、精神的健康を阻害する多くの要因が存在します。そこで本科目では、各ライフサイクル段階での発達や成熟の在り方と、それにたいする現代の社会・文化的影響、今日特に問題となる精神障害や精神的問題についての知識とそれらに対する精神保健対策、さまざまな集団における精神保健活動の実践、精神保健にかかわる施策や制度の問題などを中心に学んでいきます。そのような学習を通して、自己や周囲の人の精神的健康について考え、ひいては、人間全体の精神的健康について考えていくことを目的とします。	1) ライフサイクルにおける各ステージの特徴と、各ステージにおいて起こりやすい精神的問題や、代表的な精神障害を述べるることができる。 2) 今日社会的に問題となる精神的問題（精神障害を含む）と、それらに対する精神保健対策を説明できる。 3) 我が国の精神障害者の処遇に関して、法律の変遷を中心に歴史的に説明でき、現在どのような方向へ向かっているのか具体的に解説できる。 4) 世界の精神保健、特にWHOによる障害概念、世界的な精神障害の動向や今後の課題を説明できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△
CQ4140	精神医学	精神障害は紀元前の古くから知られていましたが、科学的な近代精神医学が確立されたのは約1世紀前のことです。そして約60年前に向精神薬が発見されて以来、精神障害の治療は著しく進展し、ここ四半世紀は、精神障害の主座としての脳に関する検査法や研究においてもめざましい発展を示してきました。本科目では、精神医学、精神医療の成り立ちから説明し、精神医学関連の基礎知識、診断の手順、各種精神障害とその治療法について理解することを目的とします。さらに、病院精神医療や地域精神医療についても理解を深めます。現代は心の時代ともいわれますが、精神医学の方法や精神障害についての学習を通して、疾患としての精神障害の理解はもちろんのこと、心を科学的に考える方法も身につけるように心掛けましょう。	1) 精神疾患の診断におけるプロセスを順序よく説明できる。 2) 代表的な精神疾患とその治療について説明できる。 3) わが国における病院精神科医療と地域精神科医療の現状について説明できる。 4) 精神科医療における人権擁護の重要性について説明できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
CR3137	精神保健福祉援助技術総論	※科目の内容は「■精神保健福祉援助技術総論Ⅰ」（2単位）、「■精神保健福祉援助技術総論Ⅱ」（2単位）の2科目の両方を参照してください。	1) ソーシャルワーカーとしての倫理、役割を理解して説明することができる。 2) 精神保健福祉領域の歴史が説明できる。 3) 基本的原則を説明することができる。 4) 援助技術についての理解を深め実践できる。 5) 記録の書き方を理解し実践できる。 6) 様々な関連技術について説明できる。 7) 多職種との連携の取り方を説明できる。 8) ライフステージにおける課題がつかめ、それぞれのステージにおける問題に対する支援の仕方を理解できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎





DA2142	福祉ボランティア活動	ボランティア活動は実践することに意義があります。本科目は、学生の普段からの自発的な活動に対し、これを推進し、また学生自身がレポートの形で第三者に伝えることで、学生自身が活動を客観的に振り返り、点検を行った結果を次に活かすことを目的としています。したがって評価対象は、活動者の実体験に基づく「活動の振り返り」や「内省」「客観的な考察」が主となります。	課題1（自身の活動を題材にする場合） 1) 自身が行ったボランティア活動に対し、課題に提示された①～⑧・⑨の項目に沿ったレポートにより他者に報告する形式で客観的な振り返りを行うことができる。 2) 活動中に直面した問題や課題に対し、自分なりの改善案を提案することができる。 3) 計画的な実践活動として、活動の質を向上させるための方策をレポートで提示できる。 課題2（他者の活動を題材にする場合） 1) 他者が行ったボランティア活動あるいは団体の活動について、取材を通して客観的にレポートに記述し分析することができる。 2) 活動の取材を通じて、活動者本人が感じている“やり甲斐”や“意義”を理解することができる。 3) ボランティア活動の実態を理解することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎
DD2211	発達障害者の地域支援	これまで法の狭間におかれてきた学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（AD/HD）、アスペルガー症候群や高機能自閉症といわれる人たちの、その障害の特性を学び、教育、司法、就労などのさまざまな領域からの支援アプローチを学ぶ。なかでも個別支援計画の策定や社会資源開発といった地域生活支援に必要とされる社会福祉援助技術を中心に、事例を用いてその支援のあり方や方法の実態を学ぶ。 ・発達障害の概念 ・その生活困難の特徴 ・地域生活支援の理念、内容、方法 ・ライフステージごとの地域生活支援の実態 ・今後の課題	1) 発達障害の概念について説明することができる。 2) 発達障害がある人の生活上の困難を生活の実態を通して説明することができる。 3) ソーシャルワークによる地域生活支援の考え方を説明できる。 4) 支援制度や方法の具体的な仕組みについて説明することができる。 5) 支援を行う際の資源やそれらの連携システムの活用が説明できる。 6) 支援の今後の課題について、自分の意見をまとめ、説明することができる。	○	◎	○	◎	○	△	△	○	○	△	△
DD2215	認知症介護論	講義では、パーソンセンタードケア（その人を中心としたケア）を基本に、認知症を抱えた人の支援とソーシャルワークについて学びます。認知症の病気の面ではなく、本人の生活の面から認知症ケアを考え、その人らしい生活を継続していく支援を考えます。	1) 認知症を抱えた人の気持ちを理解できるようになる。 2) 家族の気持ちを理解できるようになる。 3) パーソンセンタードケアの基礎を説明できる。 4) バリレーションセラピーの基礎を説明できる。 5) 認知症を抱えた人の基礎的な支援ができるようになる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
DD3119	知的障害者福祉論	知的障害者福祉支援策は多様化しました。また、知的障害者福祉施策の根底に流れる福祉観も「脱施設化」といった新たな動向が見られます。とくに、障害者自立支援法（2006年）の施行は、従来の知的障害者福祉の支援システムを大きく変革させ、知的障害者自身の利用者本位が一層強化されるようになりました。こうした知的障害者福祉の進捗に対して、社会福祉施設や地域社会における知的障害者の生活実態を分析すると、数多くの課題や問題点が山積しています。こうした社会的背景にあって2012年6月、障害者総合支援法（「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」）として可決し、これまでの自立支援法の一部が改正されました。難病患者も対象となり、重度訪問介護サービスの対象拡大などがあらたに含まれました。しかし、応益負担、地域格差、家族の負担などの問題は残っています。2017年から社会福祉法が改正され、経営組織のガバナンス強化が図られます。 そこで本科目では、こうした社会的動向を踏まえながら、いかにして知的障害者が社会的自立とその支援策を確立することが可能かをさまざまな視点から論考することにします。そのためには知的障害者が抱えている今日的課題と問題点を、現行制度の限界性と社会生活の実態との乖離からその要因を明らかにしたいと考えています。	「施設福祉サービス」と「在宅福祉サービス」との相関関係を理解し、現代社会における知的障害者の社会的不利益の要因などを分析しながら、今後の知的障害者福祉のあるべき方向性を論考し、さらなる理解を深めることができる	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
DD3161	発達障害者の理解と支援	この科目では、発達障害のある人の認知的特徴および心理的問題を理解し、それに対する対応について学習します。 【スクーリングで学ぶ内容】スクーリングでは、発達障害の定義および学習障害（LD）・注意欠陥/多動性障害（ADHD）・自閉スペクトラム症（ASD）の特徴に関して疑似体験等を通して体験的に理解します。また、障害別の対応方法についてグループ討論などを通して学習します。 【教科書・レポート学習で学ぶ内容】教科書・レポート学習では、発達障害の分類および発達障害のある人が学校や社会で直面する問題に関して理解し、適切な対応法に関して学習していきます。	1) 発達障害の種類とその特徴について説明することができる。 2) 発達障害の行動特性の根底にある認知特性について説明できる。 3) 発達障害のある児童・生徒の心理的特徴について述べるができる。 4) 発達障害のある児童・生徒に起こりうる2次障害について説明し、それを防ぐための方法について論じることができる。	◎	○	○	△	○	△	△	○	◎	○	◎
DD4196	ケアマネジメント論	ケアマネジメントは、1950年代アメリカで生まれたと言われていました。この時期、アメリカでは精神障害者が地域で暮らすようになってきましたが、適切な援助がないためにホームレスになるなど、必ずしも病院や施設より生活の質が向上したとは言えないことが明らかになってきました。その反省のもと、ケアや支援の継続性を確保するために、サービスを調整する役割が重要視されるようになりました。 60年代に入って、要介護高齢者の在宅支援の仕組みとして、ケアマネジメントが応用されるようになりました。その後、イギリスや多くの国でケアマネジメントが検討され、イギリスでは、全国的にケアマネジメントが導入されることになりました。日本でも、2000年から始まった介護保険の中でケアマネジメントが位置づけられました。また、障害の分野でもケアマネジメントは実質的に実施されています。さらに、児童虐待などの分野でも応用されています。このように、日本だけではなく世界的にさまざまな分野でケアマネジメントは注目されてきました。 ケアマネジメントは、歴史上アメリカから始まりました。しかし、ケアマネジメントという言葉は使われていませんが、日本の中では、60年代から保健・医療・福祉の連携の問題として、独自に発展してきました。また日本では、介護保険の中にケアマネジメントが位置づけられましたが、イギリスには介護保険はありません。このように、ケアマネジメントはさまざまな制度の違いにもかかわらず、いろいろな国で受け入れられてきました。 この科目では、ケアマネジメントのこのような広がりやふまえて、ケアマネジメントとはなにか、なぜ必要とされているのか、どのように形作られ、運営されているのかを検討したいと思います。必ずしも、介護保険のケアマネジメントを解説することを目的とはしていませんが、講義の内容は高齢者のケアマネジメントが中心となります。しかし、障害の分野などのケアマネジメントと理論的には共通ですので、それらを理解するためにも役立つと思います。	1) ケアマネジメントが必要とされた背景を説明できる。 2) 個別支援としてのケアマネジメントを説明できる。 3) ケアマネジメントのシステムを説明できる。 4) ストレングスマデルを説明できる。 5) ケアマネジメントの機能を理解し、実践できるようにする。 6) 事例に基づいてアセスメントとケアプランを作成できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
DE2113	NPO論	地域福祉の諸活動、とりわけボランティア活動が重要な役割を果たす事が実際に証明された阪神淡路大震災（1995年）を契機として、一般市民による非営利活動が活発化し急速な発展とともに重要性が認識されたのです。 そのような動きの中、市民による自発的な活動を支える仕組みとして非営利活動促進法（NPO法）が成立（1995年）し、民間非営利組織であるNPO（Non-Profit Organization）と呼ばれる事業体が、福祉・医療分野、子ども教育、環境問題、地域づくり、国際交流・協力など様々な分野で活動の枠を広げています。 最近では、東日本大震災（2011年）においても、多くのボランティアやNPOが災害復興支援にとって欠かせないものとなりました。 本科目では、主としてNPOの制度や活動、マネジメントについて総合的に学習してみましょう。内容としては、①我が国のNPOの役割や位置づけ、組織としての制度や活動のあり方やミッションとガバナンスの関係について学習しましょう（テキストの第1～3章）。そして、②マネジメントについて、より深く人的資源管理や経営戦略、パートナーシップおよび資金調達と評価について検討してみましょう（テキスト4章以下）。	1) NPOに関する基礎的知識を理解し、説明できるようになる。 2) NPOの様々な分野での活動を理解し、実態が把握できるようになる。 3) NPOへの興味と理解を深めつつ内容を説明できるようになる。 4) NPOについてグループワークやディスカッションができるようになる。	△	○	◎	△	△	△	△	△	○	○	◎



